

犠牲祭（タバスキ）

羊の祝祭には、フランス語でいくつかの異なる呼び名がつけられています。そのため、同じ宗教、文化、社会行事を指すのに、「犠牲祭」または「イード・アル＝アドハー」と異なる呼び方を耳にします。歴史を紐解くと、犠牲祭は、アッラー（神）の導きにより自分の息子（イスマエル）を犠牲にしたイブラヒムの、神への服従を祝賀する日なのです。

タバスキはイスラム暦（太陰暦）の12月10日から始まりますが、それは、毎年行われるサウジアラビアのメッカを巡礼する期間に該当します。タバスキのお祭りは3日間続き、全ての人々が新しい礼服や装飾品を手に入れ、この日を祝います。

タバスキ当日の活動は朝早くから始まります。夜明け前から、人々は新しい礼服を着るため水浴びをし、犠牲にする羊を洗って綺麗にします。その後、男性と子供達はお祈りの場所へと集まります。一方で、女性はこのお祭りのための様々な家事に追われるため、とても大変です。

モスクで祈りを捧げ説教を聞いた後、イマーム（イスラム教徒の指導者）は他の信者も同様に儀式を始められるよう、まず自分の羊を絞めます。余裕のある信者は、他の信者の分の羊等も購入する責任を負わなければなりません。それは好みによって、雌雄両方の羊やヤギ、牛、ラクダなどの場合もあります。タバスキの日は、身体に不自由がある人や病気や貧しい人など、いかなる人も苦しんだり困ったりしてはなりません。羊は、持ち主自身によって、あるいは持ち主が女性の場合は彼女の目の前で絞められます。

タバスキの日には、イスラム教徒は少し断食をしてから羊を絞めることが推奨されています。つまり、犠牲である羊の肉を食べるまで、他には朝から何も食べないということです。同時に、肉を全て食べるのではなくいくらか残しておいて、それを貧しくて羊を手に入れられない人々に与えます。こうすることで、どんな人でも祭りに参加出来るようにすることもイスラム教徒には求められています。

マリ北部のタバスキ

犠牲祭の日、男性達は世代ごとに集まって、日中を一緒に過ごします。そしてお茶を囲んで、各自が持ち寄った料理を共に分け合います。女性達は家事に追われるため、世代ごとに集まることができるのは、全ての家事労働を終えた夜になってからです。

若者達は、三日に渡る祝祭の間、毎晩世代ごとに集まります。女子は料理を、男子は飲み物を持ち寄ります。このお祭りは、結婚願望のある若い人々にとって、世代の異なる人々の中から将来の結婚相手を探し出す機会でもあるのです。相手を決めたら（通常、相手を決めるのは男性）、翌年の犠牲祭前夜を待ってから、女性の両親へ結婚の申し込みをします。結婚の申し込みは、将来の義理の家族に対して、犠牲祭のお祝いとしていくつかの羊の頭を贈ることで成立します。もし、相手の両親が羊の頭を受け取ったら、結婚の申し込みは受け入れられたことを意味します。

このような習慣のため、マリ北部におけるタバスキは常に（特に田舎から来ている若者にとって）、結婚の意志を表明する機会となっています。その結果、祭日の間に交わされるおしゃべりが、どこの家族にどれだけ羊の頭（結婚の申し込み）が持ち込まれたかというような情報を交換する機会へと変わります。

マリ南部のタバスキ

貧しい人々や恵まれない人々に施しと分配をすると同時に、タバスキは家族や親類を訪ね挨拶回りをする機会でもあります。首都では、タバスキのお祭り行事は数時間で終わります。その後の時間は、近しい人々に対し、伝統的な挨拶をしたり、赦しを乞うたりするのに費やされます。一方村落部では、祝祭は三日間に渡り行われ、村は歓喜に包まれます。バマコや他の都市で暮らす人々の多くは、親族とタバスキを祝うために故郷に帰ります。この帰省には、自身を見つめ直し、意を新たにするという、神聖な意味合いも込められています。

モスクでのお祈りを済ませた後、男性は近親者に挨拶回りをして赦しを乞います。その間家庭では、子供達は母親に新しい服を着せてもらい、絞めた大きな羊は若者によって皮を剥がされ、家族用の大きな鍋は火にかけられ、おいしい肉料理が出来るのを待つばかりとなります。

タバスキの期間中、大家族のメンバーは世代ごとに集まっておしゃべりと食事を共にします。伝統的に女性達はこの機会を大いに楽しみます。大家族に、最も新たに嫁いで来た若い嫁達が、先に嫁いで来た義理の姉達の所にやって来て、姉が出産しないまま長い時間が過ぎてしまったことや、すぐにでも子供を産むべきだというような、ちょっと意地悪なことを言ったりして、ひとしきりおしゃべりをします。そして、義理の妹達は姉に代わり、穀物を挽いたり、洗い物を片付けたりと、その日の様々な急を要する家事労働を始めます。それらが全て終わると、今度は義理の姉達が妹達の部屋を一つずつ訪ねるのですが、妹達は出来るだけそれを阻止しようとします。なぜなら、もし姉達が部屋に入ってしまったら、朝、意地悪なことを言われたお返しに、ダンスを開けてどれでも欲しいパーニュ（アフリカ伝統の腰巻き）を取り上げてしまうのです。そして、妹のダンスにしまつてあった最も美しいパーニュをお腹に詰めて妊娠に変装し、出産のまねごとをして、自分はいつでも出産できるということをアピールするのです。この場面には、大家族のメンバー全員が集まり、歌と踊りで歓喜を表します。義理の姉達は、新婚の妹がいる家族を全て訪れ、何時間も過ごします。これは、義理の家族間のしこりを無くし、健全な関係を築く方法の一つなのです。

午後は、子供達が小さなグループを作り、隣人や近親者から小遣いやちょっとした物をもろうため、通りで競って「サンベサンベ」と伝統的な挨拶を繰り返します。大人達は、各世代のダンス名人を集めたダンスコンクールを開催します。このコンクールには、しばしば高齢者も参加します。夜はどの村からもタムタム（アフリカの太鼓）音が聞こえてきます。人々は、そのリズムに合わせて踊り明かすのです。



犠牲の羊を解体する



女性は料理に忙しい



焼き上がった羊の肉



皮は天日に干して敷物にする